

第4回大通公園・中島公園あり方検討会 議事録

日時:令和6年7月11日(木) 14:00~17:00

会場:TKP ガーデンシティ PREMIUM 札幌大通 ホール7C

1. 開会

○事務局(後藤みどりの推進課長)

本日はお忙しいところご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。定刻となりましたので、ただいまから第4回大通公園・中島公園あり方検討会を開催いたします。私は検討会の事務局を担当しております建設局みどりの推進部みどりの推進課長の後藤でございます。私を含めまして、4月から事務局の体制に一部変更があります。どうぞよろしくお願いいたします。

なお、報道関係者の皆様におかれましては、会場内での撮影は、議事に入る前までとさせていただきます。ご協力どうぞよろしくお願いいたします。

はじめに事務局から3点ご報告がございます。

1点目でございます。本日はこれまでオンラインで本検討会にご参加いただいております国土交通省都市局公園緑地・景観課公園利用推進官の石川委員が来札をされていらっしゃいます。この場にご参加いただいておりますので一言ご挨拶を頂戴したいと思います。石川委員どうぞよろしくお願いいたします。

○石川委員

皆さんこんにちは。ただいまご紹介いただきました国土交通省公園緑地・景観課というところで公園利用推進官をしています石川と申します。よろしくお願いいたします。

全国の都市公園でもいろいろ都市の顔になるようなシンボルになるような都市公園も時間が経ってリニューアルしていかなければならない、機能を増強していかなければいけないという状況があるかと思います。そうした中、札幌市さんにおいては、この大通公園、中島公園という都市の顔になるような公園の検討会を開いているということで、私も貴重な機会を与えて頂いたと思っていますし、私としても、全国の公園を見ている立場ですので、そういった経験を生かしながらこの検討会に貢献できると思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○事務局(後藤みどりの推進課長)

石川委員どうもありがとうございました。

2点目、委員の交代についてでございます。4月に国土交通省北海道開発局事業振興部都市住宅課佐々木都市事業管理官が人事異動となりましたことから、その後任でいらっしゃいます笠松都市事業管理官に新たに本検討会委員としてご就任をいただいております。ここで委員就任にあたりまして笠松委員から一言ご挨拶を頂戴したいと思います。笠松委員どうぞよろしくお願いいたします。

○笠松委員

7月より都市事業管理官になりました笠松といたします。私はこれまでの経験でいきますと道路行政系を約30年経験しています。初めてこのような都市に関わる仕事についておりますが、今回は大きな都市公園の見直しにかかわらせていただき、非常に光栄に思っております。今後もどうぞよろしくお願いいたします。

○事務局(後藤みどりの推進課長)

笠松委員どうもありがとうございました。

3 点目でございます。本日の出席状況についてでございます。高野委員より欠席のご連絡をいただいております。本日は委員 10 名にご参加をいただいております。

続きまして、配布資料の確認をさせていただきます。

1 点目、第 4 回大通公園・中島公園あり方検討会の次第。

2 点目、委員名簿。

3 点目が本日の座席表。

4 点目がホチキス止めになっております資料、大通公園のあり方の検討についてでございます。

中島公園につきましては、現場視察を踏まえた検討についてということで本日は資料をご用意されていません。ご確認のうえ資料に不備がございましたら、お知らせいただきたいと思います。よろしいでしょうか。

2. 挨拶

○事務局(後藤みどりの推進課長)

検討会の開会にあたりまして、みどりの推進部長 高橋よりご挨拶を申し上げます。

○事務局(高橋みどりの推進部長)

札幌市建設局みどりの推進部長の高橋でございます。開催にあたりまして、一言ご挨拶を申し上げます。

本日、委員の皆様には非常にお忙しい中、貴重なお時間を割いてご出席いただき誠にありがとうございます。また、6 月 17 日の中島公園の現場視察会にもご参加いただき大変お疲れさまでございました。

また、石川推進官におかれましては、ご公務ご多忙のことと思われませんが、本日の会議にご来札いただきご出席いただいたことを、大変ありがたく思っております。

この大通公園・中島公園あり方検討会ですが、昨年度は 3 回会議を開催し、大通公園、中島公園のそれぞれについて、各回議論いただくテーマを設定し、委員の皆さまから様々な角度からご意見・アドバイスをいただいております。

そして年度が変わりまして、今年度も 3 回の会議を予定しており、本日が今年度最初の第 4 回検討会ということになります。これまでの 3 回は、発散型の議論段階と言ってよかったかと思いますが、今年度の 3 回は収束型の議論段階に入り、頂いたご意見を集約整理しながらアウトプットとして導き出し、その成果として大通公園のあり方及び中島公園魅力アッププランとしてのとりまとめていく段階に進めていく予定です。

本日の議題は、大通公園について、観光関連団体へのヒアリング結果の報告、遊具と喫煙ブース設置の実証実験に関する報告、そして、大通公園のあり方の骨子案という形で、皆様にご議論いただくためのたたき台を提案させていただきます。

また、中島公園については、魅力アッププランの素案のお示しは次回を予定しておりますので、本日は、現場視察会の振り返りをしたいと思っております。

そのような内容ですので、本日も長時間にわたる会議となりそうで、委員の皆様には、大変ご負担をおかけしますが、どうぞよろしくお願いいたします。

3. 議事

○事務局(後藤みどりの推進課長)

それではここから議事進行に入りたいと思います。撮影はここまでとさせていただきます。よろしくお願いいたします。

それでは本検討会の座長であります愛甲座長に議事進行をお願いしたいと思います。愛甲座長よろしくお願いいたします。

(1) 大通公園のあり方の検討について

ア 誰もが利用しやすい公園づくり

イ 大通公園のあり方(骨子案)

○愛甲座長

それでは本日もよろしくお願いいたします。早速議事に入りたいと思います。1つ目の議事「大通公園のあり方」について、資料の説明をお願いいたします。

○事務局(乾企画係長)

みどりの推進課の乾です。それでは大通公園についてご説明いたします。資料はA3横版で左上に「大通公園のあり方の検討について」と書かれた資料です。1頁目の資料をご覧ください。

資料左上「検討の概要と課題」では、大通公園の現在に至るまでの変遷のほか、2段目の「課題」では、平成はじめに実施した再整備工事から30年が経過し、施設の老朽化や時代の変化とともに多様な利用・ニーズが課題であると整理しています。

このほか、大通公園周辺で建物の更新が活発化し、この度のあり方検討に繋がりました。資料左下では、昨年度実施した3回の検討会のテーマをお示ししています。昨年度は初回到「大通公園の魅力と機能の向上」をテーマに検討会を行い、その後「いこいとにぎわいの両立」「沿道と連携したみどりの軸の強化」といった各々に視点の違う個別テーマに基づき、委員の皆さまから様々なご指摘等を頂きました。これらを踏まえて、資料右側今年度の検討の流れをご説明します。

今回の第4回検討会では、資料赤字のとおり「誰もが利用しやすい公園づくり」と「大通公園のあり方 骨子案」を検討のテーマとしました。「誰もが利用しやすい公園づくり」では、大通公園のこれからのことを考えるにあたり、観光関連団体からヒアリングした内容をご紹介しますほか、昨年秋から取り組んでいる「遊び」と「喫煙環境」の実証実験について、アンケート調査の結果をご報告します。

また「大通公園のあり方 骨子案」では、これまでの検討会結果や実証実験などで得た知見などを踏まえ、今後の大通公園のあり方に係る大きな方向性や、キーワードを整理したほか、空間整備の方向性を利用の視点から整理しましたのでご紹介します。

最後に今後の検討のプロセスです。

本日の検討会後、8月2日(金)、3日(土)に地下歩行空間にてオープンハウスを行い、その後、10月頃に第5回検討会、来年1月頃に第6回検討会を行い、大通公園のあり方を策定したいと考えています。

次の頁をご覧ください。2枚目は「関連する上位計画と社会潮流」と題し、大通公園と関連のある行政計画を取りまとめています。資料左側では、はじめに国交省が過年度にとりまとめた都市公園の柔軟な管理運営のあり方を掲載したほか、左下では居心地が良く歩きたくなるまちづくりとして、ウォーカブルな人中心の空間への転換が進められていることをご紹介します。また、資料右側は大通公園と関わりのある札幌市の行政計画を記載しています。

はじめに昨年度に策定した第2次札幌市まちづくり戦略ビジョンでは、大通の象徴性を継承しつつ、

公園・道路・建物を一体的に感じられる街並み形成を目指すこととしています。このほか、では、みどりの基本計画内の都市空間におけるみどりの将来像を記載したほか、昨年度策定した都心のみどりづくり方針や大通及びその周辺のまちづくり方針について関連文書を抜粋しております。

これらと関連した本検討業務の位置付けが右下です。この度の大通公園のあり方検討は「札幌市都心のみどりづくり方針」で主要事業に位置付けたことに伴い、昨年度から検討をしています。

次の頁をご覧ください。3 頁目から 7 頁目までは、昨年度行った第 1 回から第 3 回検討会までの委員意見について、要約作業をしています。過去 3 回の検討会では、委員の皆さまから約 170 に及ぶご意見を頂きました。資料の中では黒点により箇条書きにしています。そして、これらのご意見を関連項目ごとに分け、全部で 34 の小テーマに分類しました。34 の小テーマは 3 頁目の資料上段部に記載している通りです。

委員意見の一部をご紹介します。大通公園の位置付け・方向性については、「細長い形の公園であり、各区画で公園周辺の土地利用や都市計画上の位置付けが異なるため、それらも考慮する必要があること」、「空間利用、マネジメントについて大通公園の位置付けや方向性が重要」、「細かく区切ることによって様々なニーズに応えられる一方、札幌を象徴するセントラルパークでもあることに留意すること」などのご意見を頂きました。

樹木・みどりについては、「樹木は 30 年前から本数は変わらず過密状態にあるとのご指摘とともに、視点を明確に示して健全なみどりを育成する」とのご意見のほか、「樹木の高密度・老朽化・大木化のリスクを示し、そのうえで景観的な部分、沿道との連携も含めて議論を行っていく必要がある」などのご意見を頂きました。

次の頁をご覧ください。いこいとにぎわいに関するご意見では、「いこいとにぎわいの両立については、公園が細切れになっている中で、普段使いとまちの中心としての機能をどう果たすかは非常に大きな問題」とのご意見のほか、「イベント企画・イベントのあり方については、公園の利用許可と利用者の双方に札幌市が絡み、経済効果のみを考えるイベントではなく、公園にふさわしいテーマに応じて許可することが必要ではないか」太字の部分を抜粋しますが、「札幌らしいイベントづくりにつながるマネジメントや外から来た人が見たいのは市民による使われ方ではないか」などのご意見を頂きました。

次の頁をご覧ください。大通公園と沿道との連携に関しましては、沿道開発との連携に関するご意見としては、「沿道との連携については、公園の外側との関係の中でどのように計画に落とし込んで行くのか」というご意見のほか、沿道開発へのインセンティブに関するご意見も頂き、太字のとおり、「大通公園に隣接している敷地を再開発した場合、どういうメリットを公園側に与え、どんなキックバックがあるのかを整理する必要がある」などのご意見を頂きました。

また、道路空間との関係では、例えば沿道との関係（南北方向）に関するご意見として、「交差点での南北の移動者が多く、公園の角の部分のつながりから公園と沿道とのつながりをつくる仕掛けをする必要がある」とのご意見を頂きました。

次の頁をご覧ください。沿道との関係（東西方向）については、大通の車両交通量が平成よりも少なくなっているとの前提条件のもと、太字の部分のとおり「歩道部分だけでなく車道も含めた全体の再配分につなげていくことを考えても良いのではないか」などのご意見を頂きました。

次の頁をご覧ください。これまでにご説明した、検討会でのご意見のほか、私どもがこれから大通公園を考えるにあたり、調査や聞き取りなどを実施した内容についてご説明します。今回は誰もが利用しやすい公園づくりについてと題し、その一部をご紹介します。

はじめに観光関連団体にヒアリングをした結果をご紹介します。ご存じのとおり、大通公園では

札幌夏まつりや雪まつりなど通年で様々なイベントを実施しております。そこで、日常利用とイベント利用の両立を考えるにあたり、大通公園で直接イベントを実施しているイベント事業者の方やツアーなどを組む旅行事業者、ホテルなどの宿泊事業者など5団体の皆さまから、大通公園におけるイベントの観点からの魅力や観光客がどのような点を見ているかなど、聞き取りを行いました。

ヒアリング結果につきましては、9個のボックスにまとめましたので、本日よりご紹介いたします。左上、観光の観点からの大通公園の魅力・特徴としては、大通公園が持つ高い開放性や回遊性、みどりのある空間や札幌らしい景観などの土地的条件が魅力なほか、公園利用者や出店者においても大通公園での取組は魅力となっているとのことでした。

来訪者の傾向としては、イベント時の来訪者は道外客よりも市民・道内利用者が7~8割を占めること、ツアーでお越しいただく際は、目的地というよりも観光時間の合間に過ごす傾向が高いようでした。

イベント空間に求める設えについてですが、イベント事業者から、広いスペースなど空間の使いやすさを求める声や、仮設撤去・設置の効率化などに関するご意見がありました。

イベント運営のあり方については、公園の維持管理とイベントとの融合、例えばイベントの収益を公園の施設整備に還元する方法や宿泊者へのインセンティブなどの設定といったご意見を頂きました。

資料右上、イベントのあり方については、大通公園のイベントは対象を選ばない大勢の人向けのイベントが合っているとのこと意見がある一方、観光客向けのイベントなのか市民向けのイベントなのか曖昧であるとのこと意見も頂きました。

外国人観光客の求めるコンテンツとしては、アジア系の方は買い物や食事、EUの方は花壇ツアーなどが観光コンテンツとして優れているとのこと意見があったほか、外国の方には日常的な地域の文化に触れる機会が喜ばれるとのこと意見を頂きました。

沿道との連携について伺ったところ、座席数や会場を広げる観点から期間限定の道路空間に期待する声を頂きました。

民間との連携については、連携相手は何でも良いわけではなく、連携先の所在や業態によりイベントの波及効果が異なるとのこと意見がありました。例えば大通公園で飲食イベントを行った場合、周辺の飲食店への波及効果が小さいなどのご意見です。

最後に環境配慮・SDGsについてですが、これらへの配慮については、イベント内容や大通公園への還元の面でも必要であるとのこと意見を頂きました。

次の頁をご覧ください。遊びに関する実証実験の結果について報告をいたします。これまでのご説明の通り、大通公園で「遊べる遊具が各所に増えてほしい」といったご意見をいただいていたことを踏まえ、昨年11月に普段は芝生地の大通公園西10丁目に3種類の遊具を設置し、利用状況などについて調査を行いました。このたび、アンケート集計などを行いましたので、結果の概要をご報告いたします。

調査については利用者数調査とアンケート調査の2種類を行っています。

はじめに資料右上利用者数調査についてご報告いたします。

大通公園のこの場所に訪れた利用者数の傾向は、平日・休日のそれぞれに取っており、休日はお昼過ぎから夕方にかけて利用者が多くみられる傾向がありました。大人と子どもが一緒に訪れる傾向が多いことが見て取れるかと思えます。

また、平日は11月20日(月)~22日(水)で調査しており、午前中の利用が多く、特に10時台に保育施設の利用が集中する傾向がみられ、午前の子どもの数が顕著に多い結果が得られました。

続きましてアンケート調査の結果です。

アンケートは主に、お子様と一緒に来ていた大人の方に聞き取り形式でご回答いただきました。質問

の中で大通公園の遊び場の充実度について伺った結果をご報告いたします。大通公園の遊び場について充足・不足で伺ったところ充足が43%、不足が42%と均等に分かれる傾向がありました。

次に充足・不足をどのような要素で感じたかを伺いました。設問では遊具施設、走り回れる広場、水や葉っぱなどの自然施設、イベント・祭りの4つについて伺いましたが、充実しているとお答えいただいた人はこれらの4つが均等に広がる傾向がみられました。一方、不足していると回答した方々からは遊具が不足しているとの回答が得られたところでございます。調査結果については以上でございます。

これらの結果から右下の考察です。平日の保育園児や休日の家族連れなど、多くの子どもが大通公園に訪れており、遊び場は重要な公園機能のひとつであると再確認いたしました。特に、都心部の保育施設では園庭スペースが限られることもあり、未就学児や園児の遊び場の活用は促進が必要と感じたところであります。広場や水遊び場などの遊具以外の施設は、利用者に与える充足感も高く、また、都心のみどり空間を確保する観点からも水遊び場、樹木、様々な要素で遊びの空間を構成することが望ましいと考えております。一方で、遊具につきましても「揺れる」「ぶら下がる」などの遊びの機能を集約化しており、限られたスペースの中で機能の充実を図ることも効果的であると整理してございます。

これまでの議論を踏まえまして、大通公園は都心のパブリックスペースとして、重要な役割を持っていると言えるため、設置する遊具や施設についても景観に配慮した質の高いデザイン性や快適性が求められます。このほか、大通公園が持つ幅広い利用者層と話題性から、「遊び」をはじめとした先進的な取組の試行の場として考えてございます。以上で遊びの実証実験の結果報告といたします。

次の頁をご覧ください。喫煙環境に関する実証実験結果の中間報告をいたします。大通公園では喫煙制限区域のかかっていない大通公園西5丁目に多くの路上喫煙者が集まっていたことを踏まえ、昨年12月に喫煙所を設置し、吸う人・吸わない人の住み分けにより、公園利用の快適性が図られるか、調査を行いました。調査は、喫煙者数調査とアンケート調査を行いました。

はじめに資料左下喫煙者数調査についてです。

喫煙者数の調査については12時半～13時、15時～15時半の2回に分けて調査しています。調査時期は喫煙所ができる前の11月、喫煙所ができた直後の12月と今年5月の3回実施しました。

調査地点は西5丁目、西5丁目の喫煙所、加えて6丁目・7丁目という形で調査してございます。

喫煙所設置以降、喫煙所の利用状況を調査し、どのような時間帯でどの程度利用しているのかが確認できました。結果ですが、表の右側15:00～15:30の時間帯においては、喫煙所設置前の11月は西5丁目で21人が路上喫煙していました。12月の喫煙所設置以降は喫煙所の中を利用している傾向がみられます。加えて西6,7丁目の5丁目以外の場所の喫煙者を5丁目に引き込めているか調査した結果、そもそも人数が少ないこともありますが、喫煙所設置以降も大きな喫煙の変化は見られませんでした。これらの数字がより顕著にみられたのは12:30～13:00の時間帯でございます。西5丁目では31人の路上喫煙がみられましたが、喫煙所設置以降は多くの方に喫煙所をご利用いただいている結果となりました。一方でお昼の時間帯であるためか、西5丁目でも路上喫煙者が見て取れる結果となりました。6丁目、7丁目についても路上喫煙者数の大きな数字の変化はなかったという結果になっています。

次に、アンケート調査の結果をご報告します。

アンケート調査は今年5月の連休明けに対面形式で聞き取り調査を実施しています。全部で845件の回答を得まして、内訳は公園利用者が658件、喫煙所利用者が187件の回答を得ました。回答者の属性については、公園利用者は性別・年代はほぼ偏りがなく8割以上が非喫煙者から回答を頂きました。また、喫煙所利用者では3:1で男性の方が多く、回答者の7割が30～50代との傾向でした。それを踏まえた結果です。

初めに喫煙所利用者の傾向ですが、訪れている方に公園周辺の活動状況について、職場等々があるかということをお伺っております。結果としまして平日は 78%、休日は 30%の方が活動拠点があると答えており、平日は公園周辺に職場・住居を構えている方が使われている傾向が見て取れました。加えて職場からの徒歩圏をお伺っていますが、平日であれば全体の 45%が 2 分程度、22%が 5 分程度と 7 割近くが 5 分以内という傾向となっています。喫煙所の利用頻度は、平日は 83%、休日は 31%が週 1 回以上、公園の喫煙所を利用している傾向が見て取れ、特に平日では 58%が週 5 回以上利用している回答を得ています。

続きまして、吸う人・吸わない人を住み分ける取組について伺った結果ですが、公園利用者は 98%の方がやや良いという回答を得ています。肯定的な回答が 99%となりました。喫煙所利用者の回答では 88%が良い、9%がやや良いという回答を得ています。喫煙所を設けることで西 5 丁目の環境が良くなったと思うかを伺った結果、公園利用者であれば 90%の方が肯定的なご意見を頂いています。その理由としては喫煙者を気にしなくなった、ゴミ・臭いが減ったというご意見を頂いています。一方で、1 割程度の方が喫煙所を設けても臭いや路上喫煙が変わらないといった回答も得ています。喫煙所利用者からは 97%が過ごしやすくなったと回答を頂いており、その理由としては非喫煙者を気にせずに吸えるといった回答となっています。

最後に今後の予定ですが、設置から 1 年が過ぎていないことから引き続き利用観察をすることとし、喫煙所が利用環境の向上に資する取組か、見極めを行いたいと考えています。

次の頁をご覧ください。大通公園のあり方についてご説明します。これまでの検討の振り返りや公園利用を観察した結果、大通公園は本当に多くの利用者たとえば地域や観光客、大人と子どもなど多くの方に利用される公園であることが再確認されました。

またイベントの多い公園である一方、今日的には地域の利用ニーズも増え、それらも大切にする状況が生まれております。それらを左上の黄色枠囲みで整理していますが、大通公園は、防火帯から逍遙地、市民のいこいの場として変遷し、幅広いニーズを受け止める場として今日に至っています。また、札幌都心の南北を区分するまちづくりの基軸から、街区・道路・公園が一体となる空間を目指しており、今後一層、社会課題が難しくなる中でも、多様な価値観を受け入れ、互いに尊重し合う、これからの時代に相応しい札幌市の象徴空間にしたいと考えております。そうした意味で大通公園のあり方を「New Inclusive Odori Park」と整理しました。この考え方は第 2 次札幌市まちづくり戦略ビジョンの重要施策に掲げる「誰もが～」という考え方ともつながると考えています。

そして、この大通公園のあり方を支える考え方を相反する 10 のキーワードとして抽出し、資料の真ん中の 5 つの柱として整理しました。この 5 つの柱についてご説明します。

ひとつ目は「過去と未来を重ね合わせる」と題し、時間軸についてまとめております。具体的には、大通公園の象徴性を継承するとともにこれからの時代に相応しい機能や空間を付加してまいります。

2 点目は「日常と非日常を重ね合わせる」と題し、日常的に誰もが思い思いに過ごせる空間を創出するとともに、札幌ならではのにぎわいを創出していききたい、としました。

3 点目は「都心のみどりと街並みを重ね合わせる」と題し、都心の中心地の公園としての質の高いみどりの空間の創出とともに回遊拠点としての役割を高めていくこととしています。

4 点目は「一体性と個性を重ね合わせる」と題し、1.5 kmに及ぶ東西に長い公園の一体性を保つとともに、各街区の個性などを感じられる公園にしたいと考えています。

5 点目は「公共と民間の強みを重ね合わせる」と題し、公設公営の公園運営から民間事業者・市民団

体のご協力を一層得ていきたいと考えています。

次の頁をご覧ください。こちらのページはこれまでの頁でご説明した大通公園のあり方という概念を、どのような利用者体験ができる場が良いか、空間整備の視点で言葉を再整理した資料です。大通公園では多様な体験が生まれる場を創出したいと考えており、どのような利用がしたいか、今後オープンハウスなどでも意見を伺いたいと考えてございます。本日はオープンハウスに先立って、委員の皆さまにご説明させていただきます。想定した体験シーンは以下の8点です。

- 「1.5 kmの移動を楽しめる」とし、歩きたくなる、行きたくなる体験・場づくり
- 「五感に意識を向けられる」とし、水や空気感など刺激が受けられる体験・場づくり
- 「配慮が行き届いていることが感じられる」とし、質の高い統一したデザインなどが体験できる場づくり
- 「興味が広がるきっかけを持てる」とし、札幌の文化を感じられる体験・場づくり
- 「距離感の選択性が広がる」とし、例えば公園内のイベントへの参加度合いが選択できる体験・場づくり
- 「過ごし方の違いが感じられる」とし、休憩の視点場が選べるなどができる体験・場づくり
- 「時間・季節の変化が感じられる」とし、通年を通して様々な表情が得られる体験・場づくり
- 「環境の良さを感じられる」として、夏場のミストなど都心の中心地で自然的要素を体験できる場づくり

以上を整理しまして、今回の委員意見や今後の市民意見を踏まえてブラッシュアップをしてみたいと考えています。

以上で、大通公園のあり方検討についての説明を終わります。最後に、本日欠席されている高野委員からご意見を頂戴しておりますので、ご紹介いたします。

○高野委員(欠席のため、事前にご意見を頂戴した)

10 ページ New Inclusive Odori Park について

議論のたたき台として分かりやすいですが、最終的には市民にも分かりやすくするか、副題が必要かと考えます。インクルーシブは社会やコミュニティ等のある意味抽象的なものを対象とする場合と、公園という実空間を対象とする場合では使い方に検討が必要と考えます。

公園では使い方の整序化や公園内からはある意味排除しなければならない人が出てくるため、インクルージョンという言葉は慎重な検討が必要であると考えます。New という言葉は今までとは違うという意味か疑問に思いました。

10 ページ 公共によるマネジメントについて

説明文をみると公共によるマネジメントを見直すと書いているので、タイトルが相応しくないのではないのでしょうか。「多様なマネジメント主体と手法」のような表現が適しているように感じます。

11 ページ 交通軸としての位置付けについて

委員意見では交通軸としての役割や南北大通の車線の多様な移動が挙げられており、大通公園は人・車・自転車の主要な東西の交通軸としても重要だと思いますが、本位置付けには含まれていないように感じます。

以上、高野委員のご意見3点を合わせてご報告いたします。

○愛甲座長

ありがとうございました。それではこれより議論に入っていきたいと思います。

今日ご説明のあった資料についてご意見、ご質問などお伺いできればと思います。

○石川委員

10 ページの New Inclusive Odori Park について、本検討は「札幌市都心のみどりづくり方針」の主要事業を位置づける性格であると認識しているところですが、みどりというメッセージが Park という言葉からしか感じられないため、みどりが感じられるような言葉を追加した方が良いと思います。

資料の細かい中身を見ると、今の大通公園のみどりをどうするかが方向性として見えにくいと感じます。鬱蒼としてしまっているみどりの部分をどうするかというところが見えづらいのではないのでしょうか。

過去の検討会でも触れていますが、近年グリーンインフラという取組が重要視されています。国でも法改正を行い、みどりの保全についてしっかりとやっていく方向性を示しています。みどりの推進をどう考えていくのかを触れてもらえると先進性が生まれるのではないのでしょうか。

○愛甲座長

ありがとうございます。今のご意見について何かコメントはありますか。

○事務局(高橋みどりの推進部長)

10 ページの 5 つの重ね合わせはひねり出して考えた概念であります。難解と感じています。市民や議会・札幌市内部にどう説明するか、一言で表すために New Inclusive という言葉を作り出しました。

何かを打ち出していかなければ、突然 5 つの項目を出してもつらいと感じています。

New という言葉は「大通公園の再整備」という意味を込めました。Inclusive については、Inclusive 遊具を農試公園で設置したことが非常に話題になっており、Inclusive の概念が遊具に寄っている面もあり、もっと幅広い意味で都心の大通公園に展開したかったという意味で Inclusive と表現してみました。

みどりの話は、10 ページの 3 番に写真が 2 つあり、これまでの 3 回の議論の中で、公園が内向きで外に顔がない、公園が鬱蒼としている、街並みとの連続性がないといったご意見を頂きました。

みどりに囲まれて周りのオフィスと隔絶されている空間という面と、シームレスに公園と開発ビルがつながるような空間をどのように重ねていくかを考えています。

商業系が強いところは少しオープンな公園として、オフィス系の前になるとオープンスペースを設けるなどの多少隔離した内向きの空間にするなど、そのような使い分けができないかとみどりについては考えました。

公園の整備計画に対するみどりの扱いについては、1 丁目から 12 丁目まで落とし込んでいく中で、具体的なゾーニングプランの中でみどりの配置計画を考えていきたいと思っています。

○愛甲座長

ありがとうございます。他にご意見ございますか。

○吉岡委員

事務局の説明により New Inclusive の思いが多少理解できました。Inclusive という言葉は教育分野でも使います。特別支援の子も含めて一緒に教育するという考え方は世界の潮流であり、良い印象を持っています。

障害があっても大通公園を楽しめる、というイメージで New Inclusive の言葉を使うなら賛成なので、もっと打ち出しても良いと思います。大通公園の Inclusive な整備によって札幌市全体が変わってくると世界に注目されると感じています。

8 ページ、遊具の実証実験について、小さな保育事業所が増えている中で、大通公園は重要な遊びの拠点となっています。そういう意味でも子どもから高齢者までの Inclusive という言葉は期待できます。

○愛甲座長

ありがとうございます。他にご意見ございますか。

○池ノ上委員

10 ページ、5 つの方針について、タイトル(New Inclusive ~)の良し悪しは議論が必要だとして、ロジックの組み立てについて、これまでの議論がもっと表現されるべきではないでしょうか。

みどりのあり方について、名古屋の久屋大通の話をしてながら、名古屋と札幌の違いの話や方針として名古屋とは違うといった議論があったように思います。北海道札幌市としてのみどりや都市公園の捉え方は違うという判断がなされていると思います。

5 つの視点について、シビックプライド・ライフスタイル・景観・都市機能・マネジメントと認識しました。すべてにみどりの役割がベースとしてあると思いますが当たり前過ぎて書かれていないと感じています。みどりを活かすために方針があり、そこをもう少し丁寧に書くべきではないでしょうか。

大通公園のキャパシティがどれほどかが見える化されて、それが方針に反映されているか気になっています。一つは、定量的な面積・利用者数は分析されて見えてきているように感じますが、一方でコミュニティ・地域や市民側の反応、経済波及効果・文化・自然・教育などの定性的なキャパシティをもっと見える化してほしいです。

この方針を出した先に具体的にどのような計画を策定していくのか、再整備計画を実行していくのか、といったところに、見える化をしておいた方が良くと考えます。具体的にどのように組み立てていくのか、想定していないキャパシティオーバーが起きるとオーバーツーリズムと言われてしまうため、ある程度想定できるところまで見える化する作業が必要ではないかと思います。

○愛甲座長

ありがとうございます。他にご意見ございますか。

○小篠委員

設定の仕方が抽象的と感じています。今までの議論を整理した結果として、発散している感が否めません。

Inclusive や重ね合わせるという言葉が意味することは何かを自分たちの言葉に置き換えた方が良くと思います。公園を再整備することで Inclusive が達成されるのか、重ね合わせるいろいろな機能が出来上がるのか、そのようなマネジメントができるのかという話にはならないと感じています。

ハード整備と同時にソフトをどう入れ込むかがなければ Inclusive は達成できないと感じます。機能を重ね合わせた状態をどう積み上げて、保ち続けるかが大切になりますが、単純な話ではないと思います。

そこにどれだけ余裕があるのか、様々な使われ方が想定できるのか、今まで議論していました。ハード整備とソフトは必ず一体化している、という説明が分かりやすいかもしれません。

市民がどのように参画できるのか、積極的に関わるにはどうするか。オープンハウスで聞いてみてはどうでしょうか。ただ聞いても、計画に反映できる意見が出るか分からないので、分かりやすい言葉にもっと置き換えてはどうでしょう。

ハードを考えた場合に、歴史的には防火帯として機能してきた大通公園は南北で分けることが大事でしたが、その役割が終わり、都市が発展している中で、東西・南北をどのようにつなぐかが大事になっています。百数十年でつなぐことができなかった反省からつなぐことを目指しているのではないのでしょうか。どのようなやり方であればつなげられるのかが重要なテーマになっています。

札幌は 100m のグリッドで開発されてきており、他のまちとは異なる考え方です。公園が 100m ごとで切れていることはウォーカブルとして評価できるのか考えるべきではないでしょうか。その時にどのような移動のさせ方をすると、人は気持ちよく歩けるかに対して、何が必要なのかを考えるべきではないでしょうか。その議論がないとみどりを語っても具体性に欠くと感じます。

色々な場所の建物の状況が異なることからそれぞれの色がついてきており、色に従って個々の成りを変えていこうという考え方も出来ます。100m歩くと次の展開があって、また 100m歩くと次の展開がある、という考え方も魅力的かも知れません。まずは 100mを評価する必要があるのではないのでしょうか。

公園の役割は「分ける」から「つなげる」に変わってきたことを宣言して、つながりについて市民に尋ねていくということが、分かりやすいのではないのでしょうか。自分と公園がつながっているのかを問うのも良いかもしれません。それによって観光とのつながりも出てくるのではないのでしょうか。

市民にとって興味のある公園となっているのか、そこもつなぐという視点かも知れません。シビックプライドを持てるかどうか、魅力を発信するという意味で観光につながるのではないのでしょうか。

ハードをどう整備していくのかをもう一度原点に立って、ハードを整備するためのコンセプトという視点を背景に持ちながら、これまで議論したソフトの部分を重ね合わせるやり方が必要ではないのでしょうか。

○愛甲座長

今のご意見についていかがですか。

○事務局(高橋みどりの推進部長)

行政目線では憩いと賑わいの両立が重要と考えており、物理的な意味での再スタートでした。憩いと賑わいをどこに置くのか、シェアをどう説くかといったことに主眼を置いてきました。

一方で、いろいろな議論や行事を見ていくと市民自身が賑わいを楽しみにしていたり、観光団体もイベントよりも大通公園の魅力そのものを求めている、公園の利用向上につながるイベントが重要と考えています。

当初考えていた憩いと賑わいが相反する 2 つの内容ではなく、融合する、両方がメリットであるという展開を期待して検討しました。小篠先生から両義性という言葉を受取り、遊びの要素として、芝生や築山が遊具の役割を果たすといった案を頂いたと記憶しています。

一見相反する内容もどちらかを選ぶのではなく、重ね合わせるのかが不明確ですが、両義的なテーマが 5 つあると考えており、どうクロスオーバーするかを考えたかったです。Inclusive という言葉は、誰もが利用しやすい公園にしていくという思いであり、それにより市長が目指す共生社会の実現という意味では Inclusive を掲げて良いと感じています。

○小篠委員

両義的と多義的は異なります。両義的は 2 つの概念と両方の意味を同時に持っているという意味であり、今議論しているのは多義的、色々な価値観が同時にそこに存在しています。それがまさに Inclusive であり、そういう状態を作っていこうとした時に、その作り方について議論することが有効ではないのでしょうか。

多義的ですねと言うだけでは、議論が進まないように感じます。

○愛甲座長

森委員いかがですか。

○森委員

火防線から公園整備を計画されたのが長岡安平であり、その時のコンセプトが逍遙地(散歩などをする所)であり、本日の配布資料では英語でプロムナードと書いていました。古い書籍では The street garden と書かれていたと記憶しています。

北の官地と南の住居ゾーンがあり、火防線として北の方に延焼を止めるためのものが、時代とともに公園として整備しようとなりました。長岡安平による 3 つの公園(大通公園、円山公園、中島公園)は、札幌市の大きな財産です。

また、1940 年代に都市計画決定された公園が初めてできるまで、3 つの公園が札幌の公園として位置付けられていたと考えられます。中島公園はこの後の議論かと思いますが、皆さんがこれまでに言われる開発の必

要性は、中島公園は公園ではなく遊園地という概念で出発し、それが皆さんの記憶に継承されているからだと理解しています。

11 ページの 8 つの空間整備の方向性について、この 8 つが理解出来ませんでした。

空間的な歴史を踏まえるのであれば、UX1「1.5kmを楽しめる」といったストリートガーデンを目指すなどの大きなビジョンを掲げて、そこにインクルーシブなどが付加されていくべきところではないかと考えました。

○愛甲座長

ありがとうございます。この議論課題について他の委員の先生方、ご意見ございますか。

○笠委員

先週講演した時に研究室に入って 50 年であったこともあり、昔の先生の授業を思い出していました。

大通公園の特徴はローン(lawn)です。私は四国で生まれ育っており、日本芝の芝生は鑑賞の対象であって、中に入って座ったりすることがありません。北海道来ると西洋芝のローンに自由に入ってそこで寝転んでいます。それが「大通公園の魅力であり価値である」と、先生に言われたことが非常に印象的でした。

もう一つはグラスハウスを作って、雪を見ながら空間を楽しめるようにするとともに、当時の先生は話していました。その 2 点が大通公園の魅力だということの印象が強く残っています。

今の大通公園で子どもが芝生で遊んでいる姿はほっとします。賑わいは大事ですが、利用と景観のバランスをどうとれるでしょうか。(現状の大通公園では、)東の方が過剰利用で芝生がはがれてしまうことも踏まえて、どのように整備できるでしょうか。空間のあり方が問われているように感じました。

○椎野委員

10 ページについて、細かいところでは 02 で「日常と非日常を重ね合わせる」というところで、視点として有益だと感じていますが、公園の機能としての非日常は災害の印象が強いです。歴史的には火防線としての役割はありましたが、札幌の顔である大通公園では防災教育の場や活動の場として位置付けるのも重要ではないでしょうか。公園でエマージェンシーシートを使ったイベントが事例としてあり、続けてほしいとえています。

子どもにとって体験は重要であり、昨今では幼稚園バスの閉じ込めで、熱中症で亡くなったような社会的な問題になった事例もあります。体験によって危険の回避ができます。非日常に備えて防災イベントを札幌の中心部で実施して、他のところにも広げてつなげていくという内容があっても良いのではないのでしょうか。

保育園が近隣で多いため、遊び場としても大通公園は重要であり、ニーズも高く課外活動としての役割も担っていると考え、保育所が利用する時間の実態に即した配慮ができるのではないのでしょうか。

全体について、煮詰まっているという印象を受けます。意見数が多過ぎてまとめきれないとなると、生成 AI を使ってテキストデータをまとめてみたら違う整理がされるかもしれません。ChatGPT が有名ですが、先月 Google が開発した NotebookLM という生成 AI は他のものと異なり、入力したデータをもとにその結果を解析できるものであり、ネット上のデータを活用するわけではなく、保有するデータのみで結果を導くことから精度の高い結果を得られると考えます。

要点をまとめたり、課題の解決策を探すことを実行すると今までにない視点が出てくる可能性があります。今日の議事録を要点まとめするようなことやオープンハウスで出た意見をまとめるなど活用されてみてはどうでしょう。そういったものを試すことも、進め方としては検討していただきたいです。

○事務局(高橋みどりの推進部長)

椎野委員の意見は方針(5つの柱)には載り切らないところではありますが、公園が求められている要素として盛り込んでいきたいとは考えており、特に防災ポイントとしての位置付けは歴史的な意味を含めて入れるべきと感じています。

保育園のことも子どもの需要としてあり、国の施策ともマッチしていることもあって、札幌市としても

子育て促進を行っているところもあるため、子育て支援に資する大通公園といたく、事業としても位置付けたいです。道路空間をどう使うかという点では、活用の中で警察との検討も必要かと思います。

皆様のご意見を伺って考えると、計画のフレームワークとして、札幌市の施策からどう落とし込んでいくかが基本パターンであり、10 ページ上のユニバーサル・ウェルネス・スマートが今、札幌市が掲げている大義ということもあり、ここからブレイクダウンしてどのように進めるかが、コンセプトワークとしては、主軸になってしまおうと考えています。

一方で、公園の計画であり、みどりを主語にして書かなければならないことはご指摘のとおりと感じています。今日は概念論であり話は出ていませんが、公園を属地的にどう整備するかが見える議論が必要とご指摘を頂き、その通りだと感じています。

○愛甲座長

ありがとうございます。入澤委員何かコメントあればいかがですか。

○入澤委員

今回のゴールに対して、議論しなければならないことが多い気がします。目指す公園のビジョンがあるとすごく分かりやすいのではないのでしょうか。日本ハムファイターズがボールパークを作る際にパース図があって、ボールパークのイメージがビジュアルとして意識できた。そういうことを大通公園で今はこうだけれども木を少し切って、道路を整備したらこんなにも綺麗になる、こういう公園にしたいといったビジョンを伝えると市民には伝わりやすいのではないのでしょうか。

ただ木を切るだけでは難しくなるため、今こういう状態だから都市との共生ということで考えると非常に良いのではないのでしょうか。それを ChatGPT で描くとより良いかもしれません。

ウェルネス・スマート・ユニバーサルのウェルネスについて、喫煙所を作る・作らないについても木を切るのと同じで議論していかなければなりません。ビジョンでは喫煙所があるべきなのか、無いべきなのか、決めきるべきではないのでしょうか。

喫煙者と非喫煙者の共生と言えば確かに共生ですが、ウェルネスの観点では吸わない方が良いのではないのでしょうか。国際的には公園での喫煙は考えにくく、この場でどう取り扱うかは考えた方が良いと感じます。

○事務局(高橋みどりの推進部長)

昨年度 3 回を含めて色々なご意見を頂いてきました。この検討会において複数でも構いませんが、一定の方向性を頂きたいと考えています。札幌市としては、頂いたご意見をまとめる力も重要ですが、一定の結論は頂きたいです。

100%の結論が出るかと言うと、そう言った建付けではなく、専門の知見を頂いたという位置付けであり、あとは行政として市民や議会に対してどう判断をして、まとめるかという問題だと認識しています。

諮問・答申の形式にはなりますが、発散した意見を収束に切り替える転換点と考えており、どう折り目をつけるかが難しいと感じています。たくさんのご意見を頂きながら進めていきたいです。

○愛甲座長

ありがとうございます。笠松委員、今の意見について何かコメントございますか。

○笠松委員

私は道路行政が長かったため、公園の中身についてはあまりお話ができることはないのですが、今後オープンハウスが計画されていて、市民に何を問うかが重要と考えています。

11 ページの Ux1~8 までをそれぞれ聞くとした場合にどのような聞き方をするのか(どれを重視するのか、他に観点があるのかなど)、またもらった答えに対して、どのような整理をイメージされていますか。

イメージパースでもない市民が聞かれた時にもどう答えて良いのかが分からなくなるような気がしました。

道路でも市民の皆さんに重視することについてアンケートすることはありますが、ある程度どのようなことをするかをイメージしてから調査していたため、今の考えをお聞きたいです。

○事務局(高橋みどりの推進部長)

市民へのオープンハウスを踏まえて今後ブラッシュアップをしていく予定ではありますが、市民にどう示すかは考えなければなりません。

10 ページはあまりにも曖昧なため、市民に聞いても分からないと感じています。

これからの落とし込みについては、11 ページの 8 つの UX について市民がイメージできる写真を重ね合わせて作成したいと考えており、利用する時にどう感じるかを問うような調査にしたいと考えています。

8 つの UX に賛同を得ることによって、10 ページも賛同いただいたと考えられると解釈したいです。

市民が分かるイメージに落とし込まないとオープンハウスは難しいと感じています。UX の切り口で例示したいと考えているため、写真に対してもご意見を頂きたいです。

○愛甲座長

具体的にはどのように進めるかは決めていないのですか。今の時点の想定を教えてくださいたいです。

○事務局(乾企画係長)

今聞こうとしている内容は、概念ではなく、実際にどのような利用をしたいかを聞いていきたいです。そのきっかけとして考えているのは UX1～8 であり、そのイメージを見せながら意見をお聞きすることで考えていました。

写真が良いのか、スケッチが良いのかは内部で話していたところであり、大通公園の利用の仕方が伝わるような聞き取りやすい表現をしていきたいと考えています。

市民に対しては、どう使いたいかを問うような調査にしたいと考えています。

○愛甲座長

大通公園で全部を受け止めるべきなのかが疑問に感じました。キャパシティのことを考えると、大通公園で受け入れられないものもあるのではないのでしょうか。相反する内容を重ねることの効果・価値もありますが、全部を大通公園で受け止めなくても良いのではないのでしょうか。

ゾーニング(場所の使い分け)やソフトで対応することもあります。あまりにも八方美人的に見えます。大通公園で一番大事にしたいことが見え辛くなっています。みどりが欠けているという指摘もあり、本当に大切な部分が薄れている気がします。例えば喫煙を大通公園で受け入れ続けるのでしょうか。やめても良いのではないのでしょうか。

あえて言うと、子どもの遊び場にしても保育施設側で用意するべきものであり、大通公園でも遊べることは魅力の一つですが、大通公園で保育施設の機能もすべて満たさないといけないのでしょうか。ほかの公園が少ないから大通公園で受け入れざるを得ません。公園が足りないのではないのでしょうか。

本当に大通公園で受け入れるべき機能に優先度をつけて、周りの街区も含めて考えた場合に、いらないものを捨てていくことも場合によっては、考えるべきではないのでしょうか。そのように考えればもう少し内容が整理されるのではないのでしょうか。

○吉岡委員

ボールパークのようにイメージパースを作って市民と共有するのも一つのやり方だと思いますが、大通公園のあり方は市民会議みたいなものを作って恒常的に検討していても良いのではないのでしょうか。

機能を重ね合わせていった結果として、大通公園が際限なく色々なことで活用しなければならなくなるわけで、それは確かに難しいと思いますが、何かしらの活動は位置付けたいです。

○小篠委員

大通公園の一体性を何で担保するか、笠先生の「Lawn」(芝)という視点は重要なのではないのでしょうか。Lawn は市民の場、集まりの場として変わらないものであり、それが 11 ブロック存在しています。

イベントの場として市民から切り捨てられてしまっはいけないと思います。すべてのブロックが市民の場としての役割をどう取り持つかが重要です。ハードでもできるかも知れないし、別のことでできるかも知れません。ブロックごとになっています。初期に整備された時には公園として整備されていたために、つながった形相が存在していたかもしれません。

徐々にそれが切れてきていて、それを再構築するためにつなぐ意思が必要で、それに対するコンセンサス、公園としての一体性が必要だと感じます。

○愛甲座長

ありがとうございます。他にご意見ございますか。

○森委員

10 ページの 3 番目に公園と沿道との一体感を高める空間整備ということがありますが、11 ページの 8 つの中にイメージがありません。これまで何度も出てきている内容ですし、自転車レーンを作る、道路をどう改良するかといった議論もありました。

大通公園の車道は黒舗装で本当に良いのかと個人的には感じています。

ペープメントだけでも一体的に少し公園に気を使って下さいということが、伝わるような公園との連続性が生まれるような舗装をすることから始め、大通公園の中を広げて使ってみたり、片方だけ何かをやってみるような仕掛けができると良いのではないのでしょうか。トランジットモールという難しいかもしれませんが、先ずは道路と公園を一体的な舗装整備することから始めることで、道路を通る車も公園を横切るような感覚を持ってもらえるのではないのでしょうか。市民へのオープンハウスにそのようなイメージ(ペープメント、トランジットモール)も入れて意見を聞いてほしいです。

○小篠委員

アメリカでパークレットを実施しており、パーキングのパークからきていますが、公園としてのパークに視野を切り替えることを沿道でできないかというやり方が考えられそうだと今の話を聞いて感じました。

もう一点、プレイスメイキングで積極的な試みが行われていて、そこで得られたものがペープパークレットに反映できるかもしれないと考えました。

今までの定義の意味合いを変えていく可能性を社会的に確かめていくことは重要かと思います。

○事務局(高橋みどりの推進部長)

シームレスな空間が大通公園のひとつの目指すべき方向性だと思っています。交通的な課題はありますが、我々としてはまちとインフラとみどりが一体となった空間を求めているので、イメージできるものを調査として見せていきたいです。プレイスメイキングしたものを官民でどう回していくか、マネジメントしていくかは意識してやっていきたいです。

○愛甲座長

ありがとうございました。他にご意見がなければ議論はここまでとさせていただきます。今後の進め方としては 8 月 2 日、3 日にオープンハウスを実施し、意見を反映させ、10 月頃の検討会で素案を取りまとめていきたいと思っています。それでは次の議事に入る前に一旦休憩を取りたいと思います。

(2) 中島公園の現場視察を踏まえた検討について

○愛甲座長

時間になりましたので2つ目の議事「中島公園の現場視察を踏まえた検討について」の議論を始めます。まず初めに事務局から説明をお願いします。

○事務局(大山調整担当係長)

調整担当係長の大山でございます。中島公園につきましては、去る6月17日、ご都合がつかしました委員の皆さまと、現場視察を行いました。皆さま、お疲れ様でございました。特に、この案内役・講師といたしまして、笠委員におかれましては、2時間にわたり懇切丁寧に園内を案内・説明していただき、貴重なお話を伺うことができました。笠委員、本当にありがとうございました。

ここで、ご都合がつかなかった委員の方もいらっしゃいますので、当日の様子をはじめ、改めて中島公園につきまして、スライドを交えながら、簡単に振り返りをさせていただきます。写真がうまく撮れていない場合もありますので、あらかじめご了承ください。

視察当日は、地下鉄中島公園駅3番出口付近を待ち合わせ場所とし、駅前の広場からスタートしました。この広場は、札幌駅前通とつながる中島公園の玄関口として、公園の顔となる場所であり、様々な催しが行われる場所ですが、日本の都市公園百選にも選定された中島公園の顔としては、少し寂しい感じがあり、来訪者が一目でわかる大きな看板等もなく、公園の顔としてこれで良いのだろうかといった課題感を共有しました。また、見渡してみると、午前9時ごろの駐輪場が既に満車の状況でした。

広場には中島児童会館とこども人形劇場「こぐま座」があります。中島児童会館は、日本初の公設の児童会館であり、18歳までが利用できる子どもたちの居場所として重要な施設ですが、建物の老朽化が見られます。児童会館の前には遊具がいくつかありますが、大きな公園としては不足しているのではないといった問題提起もありました。

当日の天気は雨予報でしたが、写真にあるとおり、初夏のみどりたちがみずみずしく鮮やかに色づいていました。中島公園は、1907年(明治40年)に長岡安平により池泉回遊式の庭園として設計されました。写真では分かりづらいところが残念ですが、当日も藻岩山への眺望は絶景であり、長岡安平の設計思想は現在も生かされています。

ボート乗り場を過ぎ、木々の間を抜けると、木下成太郎像が威風堂々と鎮座していました。前日まで札幌まつりが開催されていましたが、その余韻を全く感じないほど静寂が広がっていました。一方、これは、樹木が過密化・大木化し、太陽の光が入ってこないことも一つの要因です。平成の再整備の完成予想図では、この一帯を「木洩れ日の広場」と称していましたが、全く木洩れ日が入ってこないといった話もありました。

さらに木々の間を進むと、日本を代表する北海道出身の彫刻家、山内壮夫氏制作の彫刻群が見えてきました。写真の彫刻は「猫とハーモニカ」ですが、実はハーモニカではないという秘話も明かされました。この周囲には、上品かつ優雅に薔薇の花々が咲いていましたが、この花壇はボランティアの皆さんにより支えられています。

北海道立文学館を過ぎると、少し開けた丘のような広場がありました。ここに、博物館の整備計画があることが紹介されました。中島体育センターやKitaraなどもそうですが、中島公園は、都心部の発展に寄り添いながら、時代の流れの中で、様々な施設を柔軟に受け入れてきたことが、特徴の一つとなっています。

伊夜日子神社の前には、立派な大きなケヤキの木がありました。この木の前にある道路は、実は都市計画道路となっており、豊平川に橋を架け、米里・行啓通になるはずだったとのことでした。

鴨々川に架かる白鶴橋を渡っています。中島公園内の園路で、ここだけが直線ですが、1887年（明治20年）にエドウィン・ダンによって設置された中島競馬場の名残であると言われています。鴨々川がきれいに透き通っています。魚が気持ちよく泳いでいるのが見えました。川の周辺はマンション等が建てられてはいますが、鴨々川は開拓当時の形状を今に残しており、都会の喧騒から離れ、みどり豊かな憩いの空間がそこに広がっていました。

当日の終着点、豊平館に着きました。どんよりとした曇り空が広がっていましたが、白い外壁の縁を鮮やかに彩るウルトラマリン・ブルー色が、映えスポットとして、来訪者を引き付けていました。

スライドの説明は以上になります。

中島公園は既にたくさんの魅力であふれており、まだまだ知らない中島公園がそこにありました。先人たちが培ってきた中島公園のその魅力を大切に継承し、次の世代や来訪される方々にたくさん知ってほしいと心から思いました。また、都心部の大きな公園として、大規模なイベントや催しなどを多くの方に楽しんでいただけたところや、時代の流れを大らかに、そして柔軟に受け止めるところもまた中島公園の魅力なのかなと感じたところでございます。

本日は委員の皆さまにおかれましては、現場視察で感じたことや考えたこと、中島公園のあるべき姿や今後の方向性など、何でも結構ですので、改めてご意見を頂き、年度内の策定を目指します「中島公園魅力アッププラン」の参考とさせていただければと思います。

○愛甲座長

ありがとうございました。本日資料はございませんが、中島公園の魅力や今後のあり方、魅力アップのため盛り込む要素などについて皆さんでお話していただければと思います。笠委員、補足などを踏まえて何かお話しいただけますか。

○笠委員

中島公園は広く、色々な顔をもっており、それぞれの使い方がされていることが特徴です。周辺にホテルが増え、観光客が散策をする場所になっており、札幌の良さを伝える場所にならないかと考えています。もっと魅力をアピールする方法があるはずです。パークセンターも全くなく、情報発信をしていかないともったいない。また、未利用地がたくさんあって、子どもの遊び場が少なく、施設はあるが、サービスが足りないという印象があります。

○愛甲座長

ありがとうございます。他にご意見ございますか。

○池ノ上委員

歴史的経緯含めて、多様な用途があり、利用者も多様です。また、耕作放棄地みたいな場所があったり、入り口が使われていなかったり、都市側のニーズもあり、検討し直す必要があると思います。中島公園がもつ特性を整理して、コンセプトメイキングしていくことが必要と感じます。景観的な話として藻岩山の借景もあり、公園を活かすための周辺とのあり方も検討していかなければいけないのではないのでしょうか。

○愛甲座長

ありがとうございます。他にご意見ございますか。

○吉岡委員

藻岩山の借景、パークホテルの歴史など、自然を利用して色々な整備がされていることを知りませんでした。大きな木が多く、暗い印象です。光の入るような整備をして、子どもの遊び場としても整備していったらどうでしょうか。

○愛甲座長

ありがとうございます。他にご意見ございますか。

○入澤委員

先週、中島公園に行きましたが、前回の現場見学会の時より、大きな木がさらに鬱蒼としていて何とかしなければならぬと感じました。個人的にはアリーナが欲しいと感じています。アリーナであれば、バスケ、バレエコンサートなど、開催されるたび市民が足を運ぶ頻度が多くなると考えます。市民のための公園であってほしいです。博物館のような文化的な施設は作っても、市民は1度行けばもう行きません。観光客目線ではいいかもしれませんが、観光客や外国人を意識するよりも市民が普段使っている風景をイメージすることで、結果的に観光客や外国人も来訪するのではないのでしょうか。

○愛甲座長

ありがとうございます。

○森委員

中島公園の近隣住民としてほぼ毎日見っていますが、素晴らしい公園だと思います。歴史を振り返ると公園が大通公園と円山公園と中島公園しかなかった中で、中島公園が博覧会の場となっていたり、跡地利用で色々なことを進めてきたという経緯があります。

都市公園法の総合公園となって、自ずと色々な施設を入れることをやめる流れになり、中島公園自体が方向転換をした要因になったと考えています。当時の新聞記事を見ると、豊平館を移築する場合にも中島公園か円山公園であり、創成川のサーカス小屋も人が来るので、円山か中島公園に移築するという議論があり、結果中島公園となっています。

また、中島公園が道立図書館の建設予定地になっていましたが、当時の町村知事が反対して、野幌に建設されました。今後の中島公園は、オープンスペースの魅力を発揮させて、今ある施設の管理状態をもう少し整理する方向性が必要ではないでしょうか。

また、公園周辺では、鴨々川の側道がインターロッキングになっていて、中島橋は昔の公園の軸を継承した向きだと思いますが、木の橋が架かっています。そのような歴史を継承しているのがこの公園の魅力であって、それを活かせる公園内外の整備が必要だと思っています。

○愛甲座長

ありがとうございます。

○椎野委員

一部で植栽の密度が高い印象でした。防犯上も、必要な剪定は実施していく必要があります。また、休憩場所がもっとあると良いでしょう。

建物の向きが、公園の方を向いていません。全体の配置計画が不十分だと感じました。施設の更新の時期に合わせて、施設の配置計画や指針を作り、合わせて設置しても良いのではないのでしょうか。

他にはない魅力があるのではないかと考えています。

○愛甲座長

ありがとうございます。

○小篠委員

公園の多様性を感じました。ここまでいろいろな場がある公園はなく、魅力となっています。みどりの環境としての多様性、都市公園としての景観や歴史が残っている点は貴重です。札幌のまちなかにあって、古い痕跡が残っていることはほとんどないため、かなり貴重です。

また、大通公園は都市と切れており、中島公園は都市とつながっているという点で全く違います。パークホテ

ルも水や景観という連続性でつながっています。周辺の街並みが位置付けられています。

現場見学会で配られたルートは非常に魅力あふれるルートと感じており、中島公園をめぐるルートとして位置付け、市民に周っていただき、魅力・歴史を再発見するのがよろしいのではないのでしょうか。また、魅力を発信するためにも、ガイドの育成も非常に重要と考えます。1時間歩ける公園は観光資源として非常に魅力・価値を感じます。

鴨々川は、河川としてだけでなく公園と一体的に管理するともっと色々なことができるかもしれません。

○愛甲座長

中島公園駅のところが入り口として認識していましたが、バス停の中島公園入口が東側にあり、色々な入口があって地域の方からすると色々な使われ方をしています。一方で、まちの顔となる公園としては入口の広場が寂しい印象があり、案内表示もなく自転車置き場で残念な空間になっています。

公園の管理事務所が奥にあり、毎年学生を連れて見学に行きますが、そのためにパンフレットを頂きに幌平橋に一度行く必要があります。管理事務所に人がいるだけで、受付や情報提供する場になっていません。

平成に園路を整備しており、ユニバーサルデザインを導入して車いすの移動等整備していますが、老朽化して不具合が起きたり、車いすに配慮できていなかったりしています。池にある手すりの高さが車いすに乗った方の目線とぶつかり、池の景観が見えないといった指摘もあり、魅力アップとしてハード整備はまだ手直しが必要な印象があります。

特に入り口部分の整備は必要と感じます。

○石川委員

現場視察への参加は叶いませんでしたが、話を聞いていると、積み上げられてきた魅力を活かしつつ未利用地の活用が必要という印象があります。パーク PFI で景観や感じの良いレストランができて SNS 等で拡散されて、更にこれまで来られなかった方も来るようになったような、好循環を生んでいる事例もあるので、民間連携について検討されると良いと思います。

公園の楽しみ方は時代とともに変わってきているように思っており、昔は広場があればよかったと思いますが、今は例えば遊具ゾーンの隣にカフェがあって、子どもを遊ばせる隣で親がカフェを楽しむようなライフスタイルが公園にあっても良いと考えます。レストランで風景を楽しむなど、市民がどのようなライフスタイルの中で公園を利用したいかも踏まえて活用したらどうでしょうか。子どもは遊び方が無限大と考えており、遊具にこだわらず、プレイパークや子どもが遊べる自然の活用など、エリアを見渡して遊び場を検討しても良いのではないのでしょうか。

○愛甲座長

ありがとうございました。笠松委員いかがですか。

○笠松委員

公園の魅力を非常に感じており、特に藻岩山の借景は本当に綺麗だと感じました。

○愛甲座長

ありがとうございます。事務局から何かございますか。

○事務局(鈴木みどりの管理担当部長)

大通公園・円山公園・中島公園は札幌の顔となる公園となっています。中島公園は管理事務所がずっと問題となっており、ハード面を打ち出していきたいです。建物は、都市公園法に基づく建蔽率を特例措置がありながらも保っており、必要に応じてこれまでも整備してきました。

札幌市として公園部局だけではなく他部局と調整しながら、博物館の話もありましたが、どのようなものができるかについて、皆さんの意見を聞きながら、50 年先、100 年先を見据えながら、現時点で考えられるベスト

な魅力アップ構想をまとめていければと考えています。

札幌市では、百合が原公園でパーク PFI が進んでいるところですが、中島公園はパーク PFI のポテンシャルが高いと感じていました。現状では、MICE の関係もあって進んでいませんが、実際に事業者のニーズが高いので、中島公園の魅力アップとして検討していきたいと考えています。

○愛甲座長

他部局との連携は必要と考えます。先ほどプレイパークの話がありましたが、川があったり、遊び場としてのポテンシャルも高く、例え遊具がなくてもさらなる魅力向上も可能だと思います。

色々な連携を図ることで魅力アップにつなげていただきたいと思います。

○入澤委員

他部局との連携の中で、中島公園の入り口の南 9 条通に電線が架かっていて、解消すると景観的な魅力が格段に向上すると思います。

○森委員

入口の話がありましたが、開拓期以降の中心は公園北側ですが、中島橋で元々は接続していました。中島公園は都市部と中島公園との関係のみならず、山鼻村とも共有していた経緯があり、札幌の都市形成の面白いところは都心部と周りの開拓の村と一緒に発展してきたことにもあります。都心部が外に大きく伸びることができず、また 3 つの公園しかなかったこともここに要因があるのではと考えてます。

そのような観点から、入口は都心部に一つ中心的なものを整備するということは、必ずしもこの公園のあるべき姿ではないように感じています。

○愛甲座長

ありがとうございました。様々なご意見を頂きましたので、これを活かして次回の魅力アッププランの案を出してさらなる議論をしていただきたいと思います。それではこれで議事を締めさせていただきます。ありがとうございました。

4. 開会

○事務局(後藤みどりの推進課長)

本日も長時間に渡りご議論いただきありがとうございました。

本日頂きましたご意見につきましては、事務局で取りまとめのうえ、今後の検討会にて事務局としての回答をお示ししたいと存じます。また、本日の資料や議事録につきましては、後日、札幌市公式 H P 上にて公開させていただきます。

なお、第 5 回大通公園・中島公園あり方検討会につきましては、10 月頃、第 6 回につきましては 1 月頃の開催を予定しております。詳細が決まりましたら、事務局から正式なご案内を差し上げたいと思います。

以上をもちまして、第 4 回大通公園・中島公園あり方検討会を終了いたします。

本日はありがとうございました。

以上